

緑区 常安学区 災害避難行動マップ

この災害避難行動マップは、大規模災害が発生した場合を想定して、学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。
この避難行動マップを活用し、“いざ”という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント



一時集合場所（自主防災組織）	集	指定緊急避難場所（一時）	人
指定避難所	家	AED設置場所	心
応急給水施設	水	地下式給水栓	水
地域防災協力事業所	人	仮設トイレ設置場所	WC
避難経路	→		

指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、土砂災害、津波、大規模な火災などの、目前に迫った危険から命を守るための場所です。

災害種別	洪水・内水氾濫	土砂災害	津波	大規模な火災	地震の揺れ
指定緊急避難場所					
①乗鞍公園			—	×	○
②要池公園			—	×	○
③常安小学校	○	○	—	×	グラウンド
④常安コミュニティセンター	○	○	—	×	屋外

指定避難所

- ・火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、**一定期間、避難生活を送るための施設**です。
- ・常安学区内における指定避難所は、常安小学校、常安コミュニティセンターの2箇所です。なお、コミュニティセンターは要配慮者を中心に受け入れを行いますので、学区の方で避難が必要な場合は、小学校に避難しましょう。

【重要】指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅で避難生活を送れるように、**家具の固定と、7日分の備蓄**を進めましょう。

延焼クラスター（延焼クラスター内の建物棟数）

- 2,500棟以上
- 1,000棟以上～2,500棟未満
- 500棟以上～1,000棟未満
- 100棟以上～500棟未満
- 100棟未満

図面の見方

- ・建物構造、規模に応じて、延焼範囲の重なる建物群（延焼クラスター）内の建物棟数を色分けして明示しています。
- ・延焼クラスター内の建物棟数が多い（桃色）ほど、燃え広がる可能性の範囲が広く、その発生危険度も高くなります。
- ・色がない地区でも、単体の火災の発生や100棟未満の火災延焼の発生可能性があります。
- ※詳細は、本市「震災に強いまちづくり方針」の解説（P.107）を参照ください。

番号	一時集合場所	自治会名
①	乗鞍公園	新鳴子（東・西・南・北）乗鞍二丁目
②	ライオンズマンション駐車場	ライオンズマンション鳴丘
③	県営鳴丘住宅集会所	県営鳴丘住宅
④	鳴丘公園	鳴丘二丁目
⑤	鳴丘東公園	タウン徳重
⑥	要池公園	乗鞍自治会（北・南）

【各町内会・自治会の一時集合場所】

災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さまによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時集合場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。

気を付けて！（風水害編）

- マンホール・側溝**
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。



- アンダーパス、よく冠水・浸水する場所**
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

気を付けて！（地震編）

- 空き家**
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
- 古い（高い）ブロック塀**
大きな地震では倒壊する危険があるためすぐ離れる。近づかない。
- 狭い道**
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。
- 電線**
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。



- 瓦屋根**
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

緑区 常安学区

世帯数：2,129 世帯 人口：5,155 人 面積：0,625 km² ※平成31年2月1日現在の世帯数と人口より

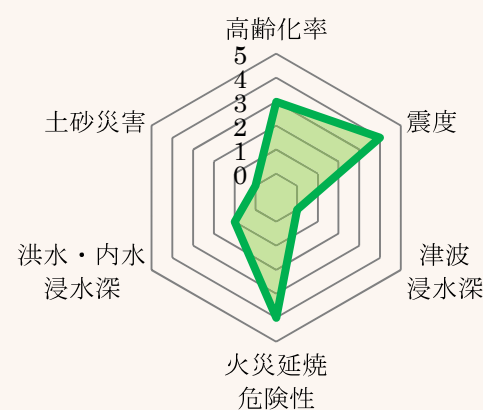
特性と災害リスク

南海トラフ巨大地震が発生した場合、強い揺れが想定されます。まずは身を守りましょう。このときに怪我をしないよう、日頃から家具の転倒防止などの耐震対策に努めましょう。液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が溢れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先と、そこまでの安全な経路についてあらかじめ考えておきましょう。

また、当学区は現行のハザードマップでは洪水による浸水は想定されておらず、内水氾濫の浸水想定も50cm未満ではありますが、想定以上の降雨があった場合はその限りではありません。普段から台風情報や降雨などについて、情報収集できるよう確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート（〔STEP1：地域特性の把握〕）

	値	5段階
高齢化率	23.2%	3
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	1,000～2,500棟未満	4
洪水・内水浸水深	0.5m未満	1
土砂災害	警戒区域なし	0



お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地域防災カルテ」をご活用下さい。
http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000110628.html



地震時の行動（津波浸水想定区域外）

揺れた!!

- 身の安全の確保
- ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- ・安全に消せる場合は火を消す
- ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意

机がない時は、クッション、かばんなど物で頭を守りましょう。

自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。

揺れがおさまった!!

- ・火の元の確認、出火したら初期消火
- ・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- ・家族の安否・家屋の被害状況の確認
- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報の入手
- ・非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

災害の危険解消 **避難先へ**

自宅での滞在が可能な場合 **在宅避難**

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を！

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。

- 在宅避難している高齢者や障害者などへの声掛け
- 避難所の避難所で避難者登録
- 周囲で食料や物資を分け合う

緊急避難が必要な場合は、避難！

- 高齢者や障害者などの避難誘導
- 原則、徒歩で避難

一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障がいのある方などの避難行動を早めました。日頃から一人で逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動が取れるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方
目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法
やさしい言葉でゆっくり声かけ
メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方
普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法
複数で手伝う
身近にあるものを利用する

災害時の情報収集方法

1. きずなネット防災情報

地震や大雨などによる災害時の避難に関する情報などをメールでお知らせします。



m.saigai@cep.jpへ
空メールして登録！

2. 名古屋市水防情報システム (NICOS)

名古屋市内及び周辺部の雨量や河川水位の状況などを確認することができます。

パソコンやスマートフォンで…

名古屋市水防情報システム を検索！

3. 災害用伝言ダイヤル 171

災害時には以下の番号で被災地の人へ伝言が残せます。

171 + 1 + 相手の電話番号

伝言を録音(30秒以内)

171 + 2 + 相手の電話番号

伝言が再生

※いずれの場合も通話料や通信料がかかる場合があります。

一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう！



◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、組、町内などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)

◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。

◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

学区の皆様へ(ご協力ください)

- ◆防災はみんなの命と生活を守ってくれます。
- ◆地域のつながりが防災の大切な「キー」です。
- ◆防災訓練で安心・安全のエンジンをパワーアップしましょう！

在宅避難のススメ

避難所は、不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



日頃の心得

お住まいの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や町内会・自治会で話し合うなど、日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地域防災カルテ」をご活用下さい。

http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000110628.html

名古屋市 地区防災カルテ 検索



- ◆非常持出品・備蓄品を用意する。
水や食糧、携帯トイレ等の備蓄品を1週間分、そのうち3日分は非常持出品として持ち運びができるようにしましょう。
- ◆家具の転倒防止をする。
家具に押しつぶされたり、避難の妨げとならないよう家具の固定やレイアウトの工夫をしましょう。
- ◆家族との安否確認方法を決めておく。
NTTの災害用伝言ダイヤル「171」や、各携帯電話会社が提供する災害用伝言板サービスを確認しておきましょう。
- ◆建物を耐震化する。
昭和56年5月以前に着工した住宅には助成制度があります。